8月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調であるが、県西地域で現場の移動と局地的な豪雨のため生産量は少ない。入荷量は国有林材の入荷もあり昨年より増加。スギ材は柱材で保合、中目材では虫害の影響が少ないものは強保合で推移。3.0m柱材で14,000円台後半、4.0m中目材は14,000円台後半。ヒノキ材は全般的に保合が続いている。3.0m柱材で22,000円台後半、4.0m中目材は24,000円台後半で推移。

群馬県では原木の出材が少なく、良材の集荷が困難になっている。原木価格は虫害の発生により下落傾向。製材工場の原木在庫は特にヒノキの4.0m90角、105角用が少ない。受注は首都圏の製品市場向け、ビルダー向けとも回復傾向にある。製品在庫は間柱、仮筋等の側製品は依然少ない。角類は均衡。ヒノキ4m90角・105角KDは原木不足のため少ない。全体的な在庫は70%程度で例年の8月よりは順調である。

2. 米材

北米産地では山火事・伐採規制の開始時期が早くなっているが、伐採等には大きな影響は出ていない。現時点では昨年の規模・ペースよりは低位で推移している。港頭在庫は日本向けに過剰感や不足感は少ない。ただし、カナダ国内向けの原木生産は州政府の方針および関税問題により極めて低調で港頭在庫は非常に少ない。米国商務省は7/25にカナダ産針葉樹製材品に対する反ダンピング税を20.56%(Canfor社、West Fraser社以外)に引き上げることと決定した。これに暫定の相殺関税約15%が確定すると合計35%前後の関税となる。これにより米国では製材品の需要増加により国内向け原木価格の上昇傾向が強まることが懸念される。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は前月と同じく\$1,000/千SCRで決着した模様。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(7/28)は\$435/Mで7月初めに比べ1.6%の上昇。

6月の原木入荷は204千 m^3 と83千 m^3 の増加、1~6月累計では829千 m^3 (前年同期比5%増)、うち米国産が561千 m^3 (同1%増)、カナダ産は268千 m^3 (同15%増)と米国産がカナダ産の約2倍となった。出荷は155千 m^3 、1~6月累計は818千 m^3 (前年同期比4%増)で入荷超。在庫は188千 m^3 、在庫率は1.38ヵ月と前月から大きく増加。東京木材埠頭の7月米材製品入荷は9.7千 m^3 (前

月比 27.0%減)、出荷は 10.7 千 m^3 (同 12.6%増)、在庫は 26.3 千 m^3 (同 3.7%減)。米材工場の原木仕入コストは上昇しているが、プレカット工場等への販売が低調で値上げしづらい環境である。

3. 欧州材

第 3・四半期の契約交渉は概ね終結し、ユーロ価格は小幅な上昇となった。対ユーロ円安もありコストは確実に上昇。産地の夏期休暇もあり対日数量は減少。日本側は 50%程度に絞ったと推測される。間柱類の出荷はプレカット工場の稼働低迷により低調。コストは上昇しているが、売値は据え置きにとどまる。今後流通在庫が滞留すれば 9 月決算期をにらんで一旦値下げもあり得る。集成柱・梁の輸入コストは 80,000 円/ m^3 を超えてくる。国内集成材メーカーはさらに値上げ傾向にあるが、どこまで足並みが揃うかがポイントである。東京港の 6 月製品入荷は 19.8 千 m^3 と前月の 16.5 千 m^3 に比べ大きく増加。出荷は低調で 13.1 千 m^3 と前月並み。在庫は 35.9 千 m^3 と一気に膨らんだ。今後 3 ヶ月は出荷低調で在庫はもう少し膨らむと予想される。

4. 北洋材

産地では夏山伐採が進行中である。日本向け製材生産はアカマツ良材不足のため減少。中国の引合いは低水準。ウズベキスタン等の国内需要は建築シーズンのため活発化し、ルーブル高と相俟ってローグレード品は輸出価格と競合している。アカマツ原板は\$435~420/ m^3 、完成品は\$585~575/ m^3 と共に保合状況。国内の現地挽きアカマツ野縁製品価格は 10 万円台を維持。6 月の製品入荷(東京+川崎)は 12.1 千 m^3 と前月より減少し、夏場の入荷減が始まると思われる。出荷は 11.4 千 m^3 と実需に迫力が窺えない。在庫は 48.9 千 m^3 に増加したが、一時的なものと冷静受け止められている。

5. 合板

東日本の合板メーカーではカラマツ原木、西日本メーカーではスギ原木が不足している。一部の工場では生産に影響が出ている。国産合板は 7 月前半から荷動きが悪くなり、ルート系を中心に当用買いとなった。プレカット工場でも受注が低調で仕入数量の調整を余儀なくされているところも散見される。国産合板は 8 月も小幅ながら値上げが通り、今後も値上げは継続するものと見られる。6 月の国内合板生産量は 21.6 万 m^3 、うち針葉樹構造用合板は 19.7 万 m^3 、出荷量は 18.4 万 m^3 、在庫量は 15.6 万 m^3 で前月より 12,300 m^3 増加。輸入合板の荷動きは低調で、現地の値上げにより今後の入荷分はコスト高が確実である。6 月の合板輸入量は 17.0 万 m^3 (前年比 100.2%)でインドネシア産が今年初めて 6 万 m^3 となった。全国主要港の港頭在庫は 7 月に入り増加

している。

6. 構造用集成材（国内産）

7月の弊社ラミナ入荷量は前月に比べ14.6%増加。在庫に不足感は感じられないが、強含みのWWラミナや120幅ラミナに不足感が見られる。第3・四半期契約価格は€290～€300/m²程度。RWラミナは€10～€15の上昇。為替は170円/€付近の円安で集成材価格はかなりの値上げ圧力となっている。7月の受注状況はお盆前の駆け込みにより前年同月比およそ110%。長物や尺上の価格は強含み。原料高・製造コスト高の影響により価格は上げ相場である。6月の構造用集成材の輸入量は小断面27,465 m³（前年同月比4.1%減）、中断面16,789 m³（同20.0%減）。

7. 木材チップ（東海）

原木の入荷は製紙・バイオマス発電用ともに例年並みで順調に推移している。燃料材は、震災廃棄物の流通量によろやく目途がつき、石川県外への搬出は大幅に減少している。解体物件が減少し、仕事の取り合い状況となり入荷は悪い。消費状況は製紙用、燃料用ともに製紙大手の定期修理終了し、生産再開に入ったため、原料・燃料ともに消費量は増加している。在庫状況は、特に燃料の在庫逼迫、解体物件の減少、大手の定期修理終了・生産再開が重なり、燃料不足の様相を呈している。

8. 市売問屋

猛暑のためか市場への来場者が減少している。国産材構造材はリフォームの仕事も少ないため荷動きは良くない。外材構造材も必要量しか買わない。造作材ではスギの荷動きが少し悪くなっており、外材も値段が高いためか敬遠されている感がある。お盆明け後の需要に期待したい。首都圏におけるスギ、ヒノキの製材品市売り価格横ばいで推移している。

9. 小売

針葉樹合板をはじめ構造用集成材やヒノキ土台角など価格が強含んでいるものは多いが、実需は弱く引き合いも少ないため、川下では価格転嫁が一向に進んでいない。国産材構造材はスギ・ヒノキともに、例年とは違い夏場に入っても原木価格は下がらず市況は非常に悪く、引き合いは極端に弱い。WW集成管柱、RW集成平角の値上がりのアナウンスはあるものの引き合いは特になく、当用買いが続く模様。国産材造作材では夏休みに入り学校関係の造作仕事が増えてきた。スギの上小程度の単価の安い物が多い。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター
令和7年8月21日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	→	↘	↗
北洋材	製材品	↘	→	↘

注) 北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オトラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→			
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	→
北洋材	製材品	北陸・オトラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
		京浜・オトラ	アカマツ(KD) 30×40上級	→
			アカマツ(KD) 24×28 積木	↘
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 集成柱 JAS 5プライ	↗
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
	スギ 無化粧 JAS 5プライ		→	
	ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985		↗	
欧州産	〃	レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↗	
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注) 令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加